

2009年(平成21年)6月10日(水曜日)

夕刊 読 置 新 聞

青森県産の未熟リンゴを使った発泡酒「医果同源アップルブリュー」が誕生した。弘前大学准教授の城田安幸さん(61)と同大生協が共同開発したもので、リンゴの香りがほのかに漂い、すっきりした飲み口が特徴。ポリフェノールを多く含み、健康にもいいという。

城田さんの専門は進化生態学。未熟果実に多く含まれるポリフェノールの一種は血糖値を下げ、がんの抑止にも効果のあることが研究で分かり、商品化を思い立った。5年前から、摘果で廃棄される未熟リンゴを搾ったジュース

未熟ですが大人の味 リンゴ発泡酒



リンゴの発泡酒を味わう城田安幸准教授
(8日、弘前大学で) —谷口博威撮影

「医果同源」を県内のスーパーなどで販売。このジュースを原料に発泡酒を開発した。新宿タカシマヤ(東京都渋谷区)で11〜16日に開かれるイベントで販売される。市販は今後検討するという。城田さんは「おいしく仕上がった。適度に飲んで、健康になってほしい」と話している。